東北文教大学 広報誌

To Be!

VOL. 4

2019.3

見つける、叶える、なりたい自分。それが東北文教大流。

東北文教大学

開学から10年目の今年4月、学長交代という大きな節目を迎える東北文教大学。鬼武学長と、新年度より学長に就任する須賀副学長が今日までの軌跡を振り返り、これから本学が目指す将来像について語り合いました。

特別対談

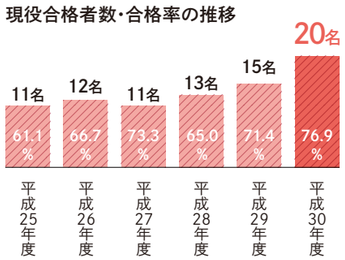
東北文教大学は × まだまだ面白くなる。

きっと苦労はある。でもそれは楽しい苦労になると思います。

強みを強化し、新たな価値を創出

鬼武／開学からしばらくは、とにかく4年制大学の設置目的にしっかりと沿った運営を行うことに奔走しました。まずは小学校教員養成を主目的として、その仕組みづくりから。いかに成果を出すかが最大の課題でした。そして平成27年度に、当初目標としていた7割近くの合格率を達成。皆で喜び合った日のことは今でも鮮明に覚えています。それは2年目に設置した教職実践センターが着実に機能していったことが功を奏した結果。小学校の校長経験者がスタッフとして常駐する同センターは、現在も本学における小学校教員養成の中核的な役割を果たしています。

小学校教員採用試験
現役合格者数・合格率の推移



須賀／本学子ども教育学科による小学校教員採用試験の突破力については、近年定評を得つつあると感じています。今後は、4年間の養成段階で教員としての“質”をどこまで高めていけるかに、よりこだわり、小学校教員養成のブランドをしっかりと築いていくことが目標の一つです。

鬼武／受験生を確保する大学間競争が激化する中、既に持っている強みを強化することに加え、新たな価値を創出していくことが至上命題と言えます。これからも教員養成を大学の中心に据えながらも、さらに教育の幅を広げるため、再来年度までに新学科を設置することが決まりました。

須賀／子ども教育学科には、公務員や一般企業への就職を希望する学生も一定数いるわけです。そうした意味では、県内の高校生の進学希望に応えられる受け皿をつくり、ひいては多彩な人材を地域に還元していくことに繋げていきたいですね。

鬼武／いざという時に色んな切り口で自分なりの思考や判断ができて、どんな変化をも乗り越えていける。そんな人材を育てることが理想です。須賀先生はいかがですか?

須賀／私が重視したいのは、人に対しての深い理解力です。本学は人の育ちや生活の支援、人が培ってきた文化など、いずれの学科も人間について学び、人間を中心として専門性を高め広く学んでいます。人間への理解は、新学科においても同様にますます重要なテーマになっていくと考えています。

「面倒見の良い大学」を極めるために

鬼武／開学以来、一貫して少人数制の教育システムを堅持してきた本学。学生と教職員の距離の近さ、学生一人ひとりに目が行き届くきめ細かなフォローアップ体制は、自他ともに認める特長の一つです。

須賀／我々が「面倒見の良い大学」を標榜する所以ですね。確かに、小規模の大学ゆえのメリットを活かせているという自負があります。それは学生側の意識にも顕著に表れていて、FDネットワーク"つばさ"で実施した「平成29年度学修成果等アンケート」では本学の卒業時の満足度が第1位に。小規模大学ならではのこれらの強みを、今後はより意識的に伸ばしてくことが必要だと感じています。

いま、真価が問われている

鬼武／山形市の子育て支援の拡充策として、2021年には本学付近の片谷地・松原地区に新たな児童遊戯施設のオープンが予定されていますね。幼児教育・保育の人材を養成する本学には、学生ボランティアやプレイリーダーとしての関わりなど、運営参画への大きな期待が寄せられています。

須賀／近隣の小学校での教育ボランティアや地域の高齢者との交流、さらに南山形に根付く文化資源を積極活用する「南山形地区創生プロジェクト」など、これまでも地域に主題を置いて多様な事業を展開してきましたが、そうした地域での実践力を進展させるまたとない機会が到来したと捉えています。

鬼武／まさに本学の真価が問われる時。大変だけれど、我々にとっても地域の方々にとっても、すごく夢のあることだと感じます。

須賀／同感です。学生たちの学びの場、教員の研究の場としての活用はもちろん、地域貢献の新たな取り組みとして、積極的に運営に関わっていくつもりです。

鬼武／それから、本学が力を入れている国際交流事業の一つとして、昨年から短期大学部人間福祉学科と中国黒竜江省との連携事業に着手しました。高齢化が急激に進みながらも介護分野の人材の確保が遅れている中国において、日本の人材育成のスキルが求められています。将来的に中国の伊春職業学院から学生を受け入れ介護福祉士として養成し、何年か山形県で働き経験を積んでもらった後、帰国して母国で活躍してくれるというサイクルを構築していく計画です。

須賀／革新的な取り組みであり、本学がパイオニア的な役割を果たしていくことに。

鬼武／須賀先生はこれから数々のプロジェクトを、構想段階から実現へ向けて具体的に動かしていくことになりますね。たくさん頭を悩ませ、ご苦労されると思いますが、それはきっと楽しい苦労だと思います。4月からお互い立場は変わりますが、これからもできる限りサポートしていきますからね。

須賀／よろしくお願いいたします。

恵まれた環境で、自分の殻を破ろう

須賀／鬼武先生も私も県外出身者で、大学時代はそれぞれ金沢と千葉で過ごしていますね。他の土地と比較して、ここ山形で学ぶことのアドバンテージについてはどのようにお考えですか?

鬼武／一つに情報過多ではないことが挙げられます。必要な情報は手に入りますが、余計な情報に翻弄されることも少ない。やりたいことが見つけやすく、しっかりと腰を据えて学べる環境が整っていると感じます。私の専攻は生物学ですが、私自身、他では決してできなかった研究を山形で実現することができました。そうしたメリットは学生にも通じるものだと思います。

須賀／文化施設が揃っていますし、歴史的な資産も豊富。存分に学びを満喫できるこの山形の環境は、外から来た者の目にはなおさら魅力的に映ります。山形を知らない県外の高校生にも、ぜひ本学のことを広く知らせていきたいですね。

鬼武／どんな子にも必ず伸び代があって、それを最大限に伸ばすのが我々の役目。高校生のみんなに伝えたいのは、決して自分で自分の評価を下さないでということ。

須賀／確かにそうですね。自分の殻を破りたいと思っている人こそ、ぜひ本学へ。「ここで学んで良かった」と言ってもらえる確かな自信が、私たちにはありますからね。

地域での実践力と、人間に対しての深い理解力が今後ますます重要に。

思い出いっぱいの学生生活
忘れられないあの日の一枚

TOHOKU BUNKYO

my BEST SHOT

学業はもちろん、サークルやイベント、友人との時間など楽しく実りの多い東北文教大学のキャンパスライフ。今回は卒業を控えた8名の学生に、大学生活での「思い出の写真」について紹介してもらいました。

クラスではカレーを
サークルではトッポギの
模擬店を出しました。

大学祭で学んだ運営の難しさ 仲間との結束が最高の思い出に

大学祭で実行委員のメンバーに入ったのですが、R.I.A（留学生と一緒に遊ぼう）サークルの部長も兼任だったため、両方の模擬店の準備に追われ苦労しました。しかし、実行委員メンバーやサークルの仲間の力を借りて、材料費と利益のバランスを考えたり、試作を繰り返したりと思い出深い日々となりました。

短期大学部 総合文化学科／2年
佐竹 穂乃香 さん
山形県立南陽高等学校 出身

レクリエーション活動
「グーパー体操」を
実演しました。

さまざまな経験で 芽生えた積極性と向上心

学生スタッフとしてオープンキャンパスの運営に参加。準備がテスト期間に重なった時は特に大変でしたが、人間福祉学科の魅力を知ってもらえるよう精一杯頑張りました。こうした経験を経て、人前で話すことに抵抗がなくなり、介護福祉フォーラムでは司会を担当。人としても成長できた2年間でした。

短期大学部 人間福祉学科／2年
小関 明日香 さん
山形県立置賜農業高等学校 出身

実行委員の仲間たち。
大成功で終えたのも
みんなのおかげ！

一丸となったスポーツ祭 苦楽を分かち合う特別な経験

昨年のスポーツ祭で実行委員長を経験しました。正直、準備は大変でしたが、他の実行委員や周囲の人たちに助けてもらいながら最後までやり切ることができました。クラスで打ち上げを開いたとき、皆が労いのためにサプライズケーキを用意してくれたのは、疲れも吹き飛ぶ最高にうれしい瞬間でした。

短期大学部 子ども学科／2年
佐々木 栞 さん
山形学院高等学校 出身

剣道部の仲間たち。
練習はいつも100%
の力を出し切ります！

剣道と勉強の両立に 最適な環境。部活から学ぶ 教員としての未来像

小学校から続けている剣道と、勉強とを両立できる環境でした。剣道部は男女10人ほど。皆常に笑顔ですが、面をかぶれば全力で練習に取り組む雰囲気が好きです。相手の気持ちを考える力が養われるのが剣道の醍醐味。卒業後地元に戻ったら、子供たちの思いに寄り添える教員になりたいですね。

人間科学部 子ども教育学科／4年
石井 知徳 さん
秋田県立秋田西高等学校 出身

友人たちと記念の一枚。
卒業旅行を計画したのも
食堂でした！

居心地の良い憩いの場 友人とともに過ごす貴重な時間

食堂は勉強や就職活動の合間にホッとできる大切な場所。友人たちといつも一緒に、ご飯を食べたり談笑したり、ゲームで盛り上がったりと良い思い出ばかりです。2年間は中身の濃い充実した毎日を過ごせましたが、勉強の本番は保育の現場に出てからだと思います。学ぶ姿勢を忘れず成長していきたいです！

短期大学部 子ども学科／2年
氏家 菜月 さん
山形県立山形北高等学校 出身

気合は十分！
何度も練習を重ねて、
いざ花笠まつり本番！

大切な2年間をフルに活用 絆を深めた花笠まつり

高校からいつも4人一緒。学科が違い会う頻度は減りましたが、工夫して時間を作り、花笠まつりに参加できたことが何より楽しかったです。あっという間の2年間。勉強や友人との時間、バイトなど時間を有効に使えるように心掛けました。今まで培った柔軟な考えで就職先ではいろんな挑戦をします！

短期大学部 総合文化学科／2年
井上 舞 さん
山形城北高等学校 出身

ケーキや歌はもちろん、
黒板メッセージや
パイ投げなどでお祝い！

友人の誕生会は全力投球 相手の驚く顔を想像します！

教員採用試験に向けた勉強の合間の楽しみは、友人の誕生日のサプライズパーティー！誰かの誕生日があるたびに、喜んでもらえるよう、いろんな計画を立てて皆でワイワイ過ごしました。そんな友人たちは互いを高め合える大切な存在。卒業後はより良い学級運営を一番に考えて、信頼される教員を目指します。

人間科学部
子ども教育学科／4年
佐藤 悦美 さん
山形県立鶴岡南高等学校 出身

受験までの2か月間、
友人と問題を出し合い
猛勉強！

将来を見据えた試験対策 先生と友人が一番の刺激に

介護福祉士になる夢を叶えるため、国家試験対策に力を入れてきました。苦手な分野も勉強していくうちにもっと知りたいと思えるように。出題の傾向やポイントも詳しく教えてもらい、先生方のおかげで無事合格！地元での就職が決まりました。施設内はもちろん、地域の高齢者との交流も大切にしたいです。

短期大学部 人間福祉学科／2年
黒田 りな さん
山形県立高畠高等学校 出身

教員インタビュー

FOCUS

バラエティー豊かな東北文教大学の教員陣に在学生がインタビュー。その専門分野を掘り下げ、研究者としての一面にフォーカスするコーナーです。

環境を整えることで、広がる世界感。子どもと歩む保育者に

子ども学科 教授（副学科長）
YUKA OKUYAMA
奥山 優佳

教授プロフィール／東北文教大学短期大学部 子ども学科 教授、副学科長。明星大学大学院人文学研究科博士前期課程修了。専門分野は教育学、幼児教育学。保育者の専門性や幼児理解を研究の課題とし、担当の授業には「保育原理」「保育課程総論」等がある。

成長に繋がる自己発揮のカギは心の基地になること

藤井／もともと先生は学校や幼稚園で教員を務めていらっしゃいますね。保育者という仕事の面白さ、魅力はどんなところにありますか?

奥山／保育園や幼稚園には学校と違って、教科書がありません。ですから、子どもとのやり取りや活動の様子から心の動きを観察し、発達の特徴を見出す面白さがあります。一人ひとり年齢や特性によっても違いますから、今何が必要でどんな活動をするべきなのか、毎日工夫しながらつくりだす、ライブ感に溢れる保育の現場は、とても魅力的ですね。

藤井／では先生の専門の一つである「子ども理解」について教えてください。

奥山／他者を理解するというのは、実は大人でも難しいことです。しかし、今どんな思いでいるのか、何を考えているのか、保育者として表情やしぐさ、関わりなどから子どもの世界を考え、理解しようというのが「子ども理解」です。子ども達の可能性はどこにあるのか。どんな事に興味があって、何が好きで、どうしたいのか。最終的に正解かどうかは分からなくても、環境を整えることで、子ども達は物事に積極的に関わり、学び、さらに深め、一人ひとりの可能性はどんどん広がります。子どもの行動には意味があります。ですから理解してもらえないとイライラしたり、理解してもらえると安心して新しいことへ好奇心を膨らませたり。保育者が子ども達の心の基地になれば、もっと自己発揮ができるようになるのです。

相手の気持ちに寄り添う大切さ。気づきから、その先の成長に

藤井／私たち学生には、特にどんなことを意識し学習してほしいですか?

奥山／相手の気持ちになって考えようとすることですね。日頃の生活でも友達や周りの人への気配りができる学生は、子どもの観察力も高いです。先生や保育者は「教えなくちゃいけない」という視点になりがちですが、子ども軸から一緒に考えようという姿勢を持てば、何気ない遊びからたくさんの気づきが得られます。おもちゃを取り合うようなケンカも、物事への執着も、全てに意味があり、必要なプロセス。より良い成長のために、どんな関わりを持ち、言葉を発し、環境を整えるかと様々な面から考えられる人が、保育のプロだと思います。

私がインタビューしました!

子ども学科／2年
藤井 悠月さん
（秋田県立角館高等学校出身）

NOTICE BOARD

東北文教大学からのお知らせや、最新の話題をお届けします。

AWARD

総合文化学科の学生が男女共同参画に関する一行詩部門に入賞。

男女共同参画宣言都市20周年記念 平成30年度男女共同参画宣言都市事業の男女共同参画に関する一行詩部門（山形市）で、今井咲希さん（総合文化学科1年）が一般・大学の部応募117作品の中から入選しました。審査対象となるのは、日頃感じる男女共同参画の一コマや、男女共同参画に対する想いが伝わる内容を一行で綴った自由形式の詩です。この部門への参加は、齋藤由美子先生（総合文化学科特任准教授）担当「ジェンダー論演習」を通じて行われました。以下が受賞作品です。「男性と女性が共に働ける場ができたとしても、セクハラ・パワハラが増えてしまえば、意味がない」

REPORT

第4回目となる山辺町の「地域食堂」が開催。

山辺町社会福祉協議会主催による「地域食堂」が11月18日に開催されました。本学は共催となっておりボランティアとして各学科の学生らが参加。地域交流を目的に、月1回のペースで開催されています。参加者は3歳のお子さんから高齢者、山辺高校のボランティアスタッフなど毎回50～70名ほど。遊びや語らい、お昼には食事ボランティアの方々が作る食事をみんなでいただきます。「スカットボールの対決がおもしろかった。（小学生）」、「レクリエーションや昼食中に話ができて良かったです。（高校生ボランティア）」、「初めて参加しました。楽しい時を過ごさせて頂きありがとうございました。（高齢者）」など、毎回嬉しい感想が届きます。

REPORT

福祉研究センター主催事業「デンマークの介護事情」講演会を開催。

9月27日、デンマークの介護付き高齢者住宅（プライエポーリ）のエレン・フォグ・アナセン施設長、メテ・ベダーセン・ビヤーゴー主任看護師、ヘレ・ヴァルビヤーン・クリステンセン主任看護師の3名を講師に招き、「デンマークの介護事情」講演会を開催。初めに、デンマークの介護福祉に関する研究を行っている宮城学院女子大学の熊坂聡教授より「デンマークの高齢者福祉」に関する基礎的な説明をしていただき、続いてエレン・フォグ・アナセン施設長より介護付き高齢者住宅（プライエポーリ）での生活の様子や個人を尊重した関わりについて話をしていただきました（同時通訳）。今後の介護施設のあり方について考えるきっかけになりました。

REPORT

児童教育研究センターによる公開ワークショップを開催。

児童教育研究センターでは8月8日、「STEPに基づいた児童との関わり方について－参加者とともに具体的な関わりを考える－」と題し、山形大学地域教育文化学部教授 松﨑学氏を講師に招き公開ワークショップを実施。松﨑先生の講話や異なる職種同士でのグループワークを通し、家庭や学校でSTEPに基づく考え方をするとどのようなアプローチができるのか、普段とは違った見方や対応の仕方を学びました。「先生方のお話を伺い、また具体的な事例も聞かせていただき、自分に置き換えながら考えることができとても良かったです。」「“主体性を育む”際のジレンマを様々感じました。自分の今後の課題としたいと思います。」といった感想が参加者から寄せられました。

社会ではばたく
To Be! 力（りょく）

夢を後押ししてくれた大学での学びの時間 理想の介護施設を目指して

MOTOKI SHINNOSUKE

元木 真之輔さん

株式会社まごころ　代表取締役

介護の仕事を志したきっかけは、祖母を介護する両親の姿を見た中学時代。介護を手伝っていたその時期、母との何気ない会話の中で出た「いっそ自分の施設をつくっちゃえ」という言葉が、自分のスイッチを入れたような気がします。介護される側もする側も、生きがいを感じられることが理想だと思ったんです。ですからその後、介護職の資格取得を目指せる山形短期大学（現 東北文教大学短期大学部）に進学したことは自然な流れでした。現場で働ける確かな技術なくしては、理想の施設なんてつくれない。そう考えたからです。

大学で介護技術の基本をしっかり学べたこと、仲間や先生と出会えたことが今でも自分の財産になっています。「自分の施設を」と前のめりになっていた私に、先生はいったん就職して経験を積むことを勧めてくれ、卒業後は介護老人保健施設に就職しました。そこでは社会経験・現場経験ともにさまざまな学びがあり、必要不可欠なものだったと感じています。現在は山形県東根市で小規模多機能型居宅介護とデイサービスの施設を運営していますが、立ち上げから一緒に関わってくれたのも大学時代の仲間でした。ですから今、夢を実現して介護施設を運営できているのは、大学で得たもののおかげと言えるかもしれません。

学生の皆さんには大学で、さまざまな人とのコミュニケーションを大切にしてほしいです。共に学ぶ仲間や先生、そして地域の方々など、広く交流するのに最適な場だと思いますし、そこで得られた経験と人間関係は、その後の人生の糧になります。ぜひ楽しんで、充実した学生生活を送ってもらいたいと思います。

私の HISTORY

プロフィール
1983年生まれ。山形県立北村山高等学校出身。2002年山形短期大学人間福祉学科（現 東北文教大学短期大学部人間福祉学科）卒業。介護老人保健施設での勤務を経て、2011年に株式会社まごころを立ち上げる。同社代表取締役。

1年次
介護技術を学ぶが、実習で自分の理想とする現場とのギャップにも気づく。

2年次
「夢のために、まずは現場で経験を」と担当教員からアドバイス。

20代
介護老人保健施設に勤務。現場経験を積みながら関係する法制度などへの理解も深める。

27歳
ここがターニングPoint!
「利用者さんとゆっくり関わり合える施設にしたい」との思いで、大学時代の仲間と会社を設立。

現在
利用者にとって「第二の家」と言えるような、柔軟できめ細やかなサービスを提供。地域ぐるみで高齢者をケアするような社会の実現を目指している。

To Be! 広報誌タイトル「To Be!」の由来
To Beには「やがて～になる」の意味と「TOBE（飛べ）」という思いを込めました。
東北文教大学は「なりたい自分」を見つけ、未来に向かって羽ばたいていく皆さんを応援していきます。

発行月：2019年3月（年2回発行）発行：東北文教大学 入試広報センター　〒990-2316山形県山形市片谷地515　TEL：023-688-2296　URL：http://www.t-bunkyo.ac.jp